

平成30年度 活動報告 (年報)



木曾駒ヶ岳周辺における植生復元作業



国有林見学会（秋季）



カザグルマ 城山国有林

林野庁 中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター

平成31年3月29日発行

〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

一年を振り返って

平成30年度は、4月に職員が2名交代し、新たな体制で始まりました。

今年度当センターが行った取り組みの一部を簡単に紹介させていただきます。

1. ニホンジカ対策

ニホンジカ対策は近年、重要な課題となっています。平成28年度から実施している中央アルプスの高山帯及び亜高山帯におけるニホンジカの生息調査をセンサーカメラにより引き続き実施した結果、今年度においてもそれぞれで確認されました。ライトセンサスによるニホンジカの個体数調査については、昨年同様に木曾駒ヶ岳山麓において、長野県、木曾署と連携し5月から翌年1月の月1回実施したところ、5月に初めて1頭確認しました。さらに、御嶽山麓の岐阜県側にもニホンジカが生息しているとの情報から、新たに御嶽山の長野県側の高山帯、亜高山帯においてセンサーカメラによる生息調査と御嶽山麓におけるライトセンサス調査を5月から11月までの月1回行いましたが、双方とも確認はされませんでした。

また、くくりワナによるニホンジカの捕獲では、クマの錯誤捕獲が発生していることから、錯誤捕獲防止としてバネなし足用くくりワナの使用と、ワナ設置後の見回りの軽減を図る目的で捕獲時にメールで通知される「メールでハンター」を活用した実証試験を行いました。メール通知はあったもののニホンジカの捕獲にはいたりませんでした。

2. 木曾川上下流交流事業

木曾川上下流交流事業として国有林見学会を5月25日、7月26日、10月27日の3回開催しました。木曾川の上流部には国有林が多く分布し、その下流部では愛知用水により、農業、工業、家庭等に水が供給されているとともに、名古屋市熱田区白鳥は江戸時代初期の名古屋城の築城を契機に木曾山等から、豊富な森林資源を背景とした木材の流通が盛んに行われた歴史があります。この見学会は、木曾川下流域の名古屋市を中心とした住民の方々に、木曾川上流の国有林を訪ね、木曾地域の林業のあゆみ、木材運搬方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や、木材の生産地等を見学し、江戸時代から現在までの深いつながりをもつ木曾との関連について理解していただくことを目的に行っています。今年は夏の7月に1回追加したところ、名古屋市周辺は夏休みに入っていたことから初めて小学生の参加がありました。

3. 森林環境教育

森林環境教育等への取組として、8月7日に木曾郡内の教職員を対象とした森林・林業学習会を木曾町の御料館（旧帝室林野局木曾支局庁舎）及び城山史跡の森（城山国有林）で開催しました。この学習会は、小中学校の教職員の皆様方に、森林の維持・管理、手法等について学び、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高め、森林環境教育を学校教育の中に積極的に取り入れていただくことを目的に、長野県と共催で平成14年から開催しています。今年度は御料館の見学、木工体験、城山史跡の森の散策、治山施設の役割等について学びました。開催場所を城山史跡の森としたことから、この森を活動拠点としている「城山史跡の森倶楽部」から講師を派遣していただきました。

業務内容の一部の紹介となりましたが、1年間多くの方々と森林を通してふれあうことができました。当センター業務に協力していただいた多くの関係者の皆様に感謝いたします。

[所長：新家孝之]

活動内容等

第1	温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組	
1	第2回「木曾悠久の森写真」写真コンテスト表彰式	… 1
2	阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林の更新調査	… 2
3	三者協定に基づく研究・技術開発（助六実験林調査）	… 2
第2	自然再生事業	
1	中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業	… 3
2	NPO等の支援・連携を活用した城山史跡の森づくり事業	… 5
第3	森林環境教育等への取組	
1	教職員の森林体験学習及び森林環境教育への取組	… 9
第4	ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業	
1	生息調査	… 10
2	クマ錯誤捕獲防止実証試験	… 12
第5	森林ボランティアへの技術支援	
1	「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	… 13
第6	木曾川上下流交流事業	
1	育樹祭、体験学習等	… 14
2	国有林見学会	… 18
第7	森林散策マップ普及事業	
1	パズルラリー	… 19
	年間の活動及び行事等	… 22

当センター設置の目的

- 1 国有林野等を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- 2 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

活動フィールド

主な活動区域を木曾森林管理署及び南木曾支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曾森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曾郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曾町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曾郡木曾町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曾森林ふれあい推進センター」

第1 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

木曾悠久の森

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曾地方の森林は、良質の木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では木曾地方（長野県木曾地域及び岐阜県裏木曾地域）の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされる、さまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曾悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等の連携を通じた取組を行っています。



位置図



温帯性針葉樹林（長野県木曾郡王滝村）

1 第2回「木曾悠久の森写真コンテスト」表彰式

木曾悠久の森をより多くの方に知って親しまれることを目的に、平成27年度の第1回に続き、平成29年6月1日から平成30年1月31日まで、第2回「木曾悠久の森写真」コンテストを開催し、21名から65作品が寄せられ、3月7日の審査会で最優秀賞1点、優秀賞5点、入選5点を選定したところです。

入選作品の表彰式は5月27日（日）に赤沢自然休養林で行い、表彰式に併せ1ヶ月間、赤沢森林交流センターで入選作品を展示し、来訪者の皆様に四季折々に創り出す森林の豊かな表情を楽しんでいただきました。



受賞された皆さん



入選作品の展示（5月27日）

2 阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林の更新調査

人工林から天然林へ復元する「コアb」では、森林のもつ公益的機能に支障が生じないように、間伐等の保育を適切に行うとともに、抜き切りを繰り返して林床の天然稚幼樹の発生・生長を促すなど、自然の推移を踏まえた超長期にわたる育成複層林施業等の実施を通じて、目標とする天然ヒノキ大径木を主体とした林型へ誘導することとしています。

当センターでは、平成25年の間伐に伴ってヒノキ等の稚樹が発生していた木曾郡大桑村阿寺国有林にある「人工林ヒノキ優良林分展示林」内で平成28年度から高齢級間伐林分における更新状況等の把握とともに、木曾悠久の森の取組等に関する参考として、各種調査等に着手し、今年度は2回目の更新調査を実施しました。



人工林ヒノキ展示林（大桑村）

3 三者協定に基づく研究・技術開発（助六実験林調査）

木曾森林管理署に所在する助六（すけろく）実験林（長野県木曾郡王滝村）は、木曾悠久の森のコアa（核心地域：温帯性針葉樹林の保存地域）に属し、平成元年度に湿性ポドゾル土壌分布域における木曾ヒノキ天然更新技術体系の確立を目的に設定された試験地です。実験林では設定後、事業規模による漸伐（下種伐）、列状交互群状択伐（市松模様に伐採）施業試験を行い、平成11年度からは更新調査を実施しています。

中部森林管理局では平成28年度に森林研究・整備機構 森林総合研究所と信州大学農学部との間で「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」を締結し、今年度の取組の一環として3者による助六実験林の視察を7月24日に実施しました。

また、継続実施してきた更新調査を今年度は当センターで受け持ち、関係機関から調査方法の指導・助言をいただきながら局・木曾署と連携して11月16日にヒノキ等更新樹種の生育及び更新阻害の要因とされるササの状況等の調査を行い、これまで蓄積されてきたデータをもとに、1月29日～30日に局で開催された中部森林技術交流発表会で、更新樹種の成長推移等の分析結果を木曾署と共同発表により報告したところです。



助六実験林（7月24日）



更新調査（11月16日）

第2 自然再生事業

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施します。

1 中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業

① 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により、高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てボランティアの協力の下、平成17年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横（鞍部）	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	(荒天のため中止)		
28. 7. 20	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	150	12
28. 9. 09	天狗荘周辺・伊那前岳方面	106	30
29. 9. 14	天狗荘裏	95	16
30. 9. 13	天狗荘裏	80	13
計		2,398	405

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

② 平成30年度の取り組みについて

17～18年度実行箇所では、登山道沿いなどの一部では植生回復が遅れていたことから、植生マットの再敷設による補修作業と、完熟したミヤマクロスゲ、コメススキ等の種子を採取し、敷設地への播種も併せて行いました。

今年度も天気に恵まれ、地元長野県駒ヶ根市をはじめ関係署等の協力をいただき、予定していた作業を無事に終わることができました。

以前に植生マットの敷設を行ったものの、マットの劣化や植生の回復が遅れている箇所が散在していることから、地域関係者等の協力を得ながら必要な作業を今後とも実施していくことにしています。



作業着手前の状況（7月18日）



資材の運搬



植生マット敷設1



植生マット敷設2



種子のまきつけ(播種)



作業実施後の状況

2 NPO等の支援・連携を活用した城山史跡の森づくり事業

「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曽郡木曽町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曽氏によって築かれた山城である福島城跡や木曽義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、木曽福島駅から比較的短時間で木曽ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外から観光客が訪れています。

「城山史跡の森倶楽部」が主体となって実施する「城山史跡の森」の森林整備、希少野生植物の保護活動等に対し、当センターでは支援、協力を行っています。

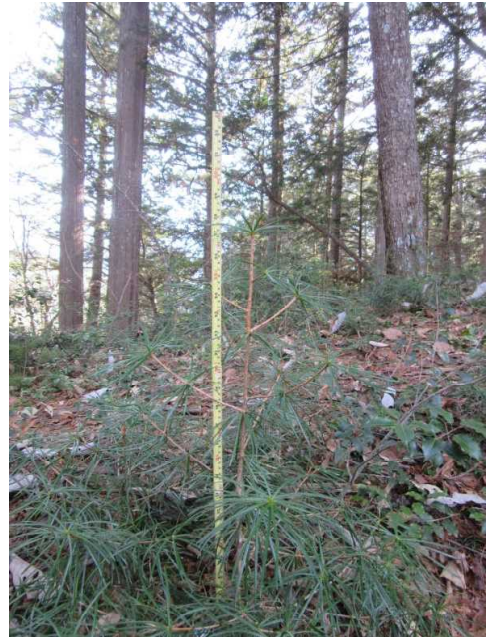
また、「城山史跡の森」は、木曽川下流域の人たちとの交流の場としても活用されています。

(1) コウヤマキの更新調査

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることからその名に由来するといわれ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は建築、器具等に用いられ、水に強くて腐りにくい特徴から、古くから風呂桶や船舶等の用途にも使われています。

木曽谷地域でのコウヤマキの生育箇所は限られる中、「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があることから、天然稚樹の育成を目的として平成21～22年度に下木処理を行い、以降、稚幼樹の生長調査を実施しています。



コウヤマキ生長調査(11月21日)

(2) 希少野生植物等の生育箇所の整備

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

今年度は、ササユリとヤマシャクヤクの自生地において、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに、野生動物による食害防止のため電気柵の設置等の作業を行ってきました。



電気柵の設置（ヤマシャクヤク自生地）



電気柵の設置（ササユリ自生地）

◎ カタクリの開花調査

H 2 6	4 1 本を確認	
H 2 7	5 4 本	
H 2 8	2 2 本	
H 2 9	3 7 本	
H 3 0	1 4 本	→
(4 月)		



◎ ヤマシャクヤクの開花調査

H 2 6	2 6 9 本	
H 2 7	2 6 4 本	
H 2 8	3 5 7 本 (個体)	
H 2 9	2 0 7 本	
H 3 0	1 7 7 本	→
(5 月)		



◎ カザグルマの開花調査

H 2 6	1 3 0 本	
H 2 7	1 3 9 本	
H 2 8	(整備中のため調査未実施)	
H 2 9	7 0 本	
H 3 0	2 0 9 本	→
(5 月)		



◎ ササユリの開花調査

H 2 6	3 4 本	
H 2 7	2 7 本	
H 2 8	2 9 本	
H 2 9	3 2 本	
H 3 0	3 2 本	→
(6月)		



(3) 史跡の森内における森林環境教育等の支援・協力

城山史跡の森倶楽部は、「城山史跡の森」の国有林のうち、城山風致探勝林（レクリエーションの森）に指定されている区域について、平成16年度に木曽森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」（対象面積77.9ha）を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動を実施しています。

当センターでは、同倶楽部の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与など協力を行っています。

① 遊歩道の整備

4月8日（日）の春の観光シーズンと7月17日（火）の夏休みシーズンを迎える前、自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、城山史跡の森倶楽部会員とともに、「城山史跡の森」遊歩道等の整備を行いました。

風倒木や、崩落等の影響で遊歩道の通行に支障が生じていたことから、これらの処理を中心に作業を行いました。



遊歩道の整備

② 自然観察会

城山史跡の森倶楽部が主催した自然観察会は4月29日（日）と10月28日（日）に行われました。

4月29日（日）に開催の「きそネイチャーマイスター養成講座 城山史跡の森の珍しい植物を観よう！」（木曾町環境協議会共催）と題した自然観察会には地元の家族連れなど23名が参加しました。自然観察会は、毎年、「城山史跡の森」（福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を総称）で行われており、当日は、倶楽部会員の案内で約8kmの行程を貴重な植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策しました。



春の自然観察会のようす



秋の自然観察会のようす

③ 小鳥の巣箱点検

11月13日（火）、昨年の11月に取り付けた巣箱の取り外し作業を城山史跡の森倶楽部会員など13名が参加して実施され、当センターからは4名が協力しました。

取り外した巣箱には営巣や利用した形跡が確認されましたが、利用されていた巣箱は12箱と少ない状況でした。



巣箱の取り外し



小鳥が利用した巣箱のようす

第3 森林環境教育等への取組

1 教職員の森林体験学習及び森林環境教育への取組

木曾郡内の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を、木曾町の御料館（旧皇室林野局木曾支局庁舎）及び城山史跡の森（城山国有林）で8月7日（火）に実施しました。

この学習会は、小・中学校の教職員に森林・林業について理解を深めていただき、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらい、学校での総合的な学習時間のプログラム作りに役立ててもらうことを目的に、長野県との共催により平成14年度から実施しているもので、今回で17回目の開催となり、木曾郡内の小中学校教職員7名、関係者4名の計11名で木工体験と森林散策を行いました。



マイ箸を作成中

開催場所を城山史跡の森としたことで、活動拠点としている「城山史跡の森倶楽部」から講師を派遣していただきました。

当日は御料館において、木材を使った木工体験としてミニイスとマイ箸の作製体験及び派遣していただいた講師から木曾の歴史や林業の変遷についての説明を受けました。その後城山史跡の森を散策しながら、長野県の希少野生動植物に指定され、当史跡の森に自生しているササユリ・ヤマシャクヤクを同倶楽部と当センターが共同で行っている保護活動の説明、史跡の森の生い立ち、植物・樹木の見分け方や治山施設の役割について学びました。

また、当センター職員により中央アルプスでニホンジカの生息が確認されたことから、ニホンジカ生息調査のためにセンサーカメラを設置していることを説明し、城山史跡の森に設置しているカメラで撮影されたニホンカモシカ、イノシシ、クマの画像を見てもらった後に、カメラ設置方法の実演も見学していただきました。

参加した先生からは「楽しく参加する中で、木曾の森林について理解を深めることができた」「今回の学習会を機に木曾で教員をする人間として森林、自然についてもっと知識を深めたい」「ミニイス作りを授業に取り入れたい」などの感想が寄せられました。



倶楽部の講師からの説明

第4 ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業

深刻化しているニホンジカによる森林及び高山植物への被害について、木曽地域では顕著に現れていない状況ですが、中央アルプス山麓ではニホンジカが確認されています。

今後、各地への被害が懸念されており、木曽森林管理署及び木曽森林管理署南木曽支署では実態に応じた対策が進められています。

当センターでも関係機関等との連携を図り、センサーカメラ及びライトセンサによる生息調査、クマ錯誤捕獲防止実証試験を行っています。

1 生息調査

(1) センサーカメラによる生息調査

センサーカメラによる生息調査は、平成28年度から中央アルプス山麓及び高山帯にカメラを設置し、ニホンジカの移動状況等の観測を行っており、確認された地点ではセンサーカメラを増設するなど監視を続けています。

平成29年度には中央アルプス南部に位置する空木岳周辺、越百山（こすもやま）周辺の標高2,500～2,600m付近でニホンジカの生息が確認されたことから、引き続きカメラを13台（内2台は自然災害により回収が不可）を設置し調査したところ、越百小屋付近の標高2,379mの林内でオス2頭、メス1頭が確認されました。（表-1）

また、平成29年度に御嶽山の八合目の岐阜県側で、岐阜森林管理署が設置したカメラにニホンジカが確認されたことから、御嶽山の長野県側に4台（中の湯跡、女人堂付近、三ノ池、継子岳頂上付近）のカメラを8月～10月まで間設置し調査を行いました。ニホンジカを確認することはできませんでした。

表-1 中央アルプス登山道沿い、稜線での出現状況

箇所数	撮影頭数					設置日数	100日あたりの撮影頭数
	オス	メス	幼獣	不明	計		
11	14	31	0	0	45	1,243	3.6

中央アルプス山麓では木曽町内の国有林内（標高1,300m）3箇所にカメラを4月～12月まで設置しました。そのうちの1箇所については、毎月撮影され6～9月での出没傾向が高くなっていました。（表-2）

表-2 中央アルプス山麓での出現状況

箇所数	撮影頭数					設置日数	100日あたりの撮影頭数
	オス	メス	幼獣	不明	計		
3	46	45	0	1	92	825	11.1



中央アルプス登山道沿いのメスジカ



中央アルプス山麓のオスジカ

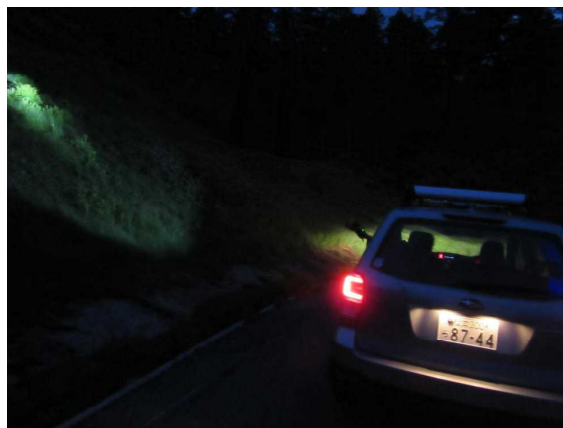
(2) ライトセンサスの実施

ライトセンサスによる生息調査は、平成29年度から中央アルプス山麓の国有林部での調査に加え、御嶽山八合目の岐阜県側でニホンジカが確認された事から、長野県側の御嶽山麓王滝村「おんたけ2240スキー場（標高1,680m～2,240m）」を中心に実施箇所を追加して調査を行いました。

実施方法は5月～11月の間、月1回日没後、長野県木曾地域振興局林務課及び木曾森林管理署と合同で調査を行いました。

調査したところ、平成29年度は一度も目撃はありませんでしたが、5月の第1回目の調査で、中央アルプス山麓でオスのニホンジカ1頭を目撃することができました。9月にはニホンカモシカ1頭を目撃した以外、他の動物も目撃されない結果となりました。

目撃が少なかった要因としては、実施した林道の法面が急傾斜に加え、雑草の繁茂などにより、林内の見通しが利かない状況であったことが考えられます。



実施状況（王滝村）

2 クマ錯誤捕獲防止捕獲実証試験

木曾地方ではツキノワグマの生息が多数確認されており、ニホンジカ用くくりワナによる錯誤捕獲の増加が課題となっています。このため中央アルプス山麓部の国有林において、クマ錯誤捕獲防止実証試験を地元の猟友会に委託し、10～11月の延べ39日間行いました。

実証試験ではクマ錯誤捕獲防止用ワナのバネなし足用くくりワナ「いのしか御用」を使用しました。ワナ設置後の見回りの省力化を図るため、ワナが作動すると通報するメール通信システム「メールでハンター」も活用しました。

「いのしか御用」はクマの大きな足がワナの枠の中に入らない設計になっており、12cmタイプを5台、17cmタイプを5台、計10台を設置し、そのうち3箇所にセンサーカメラと、効率よく捕獲するために干し草を角型に整形固形化した誘引餌「ヘイキューブ」を2箇所に設置しました。

実施の結果、ニホンジカの捕獲には結びつきませんでした。ワナ付近に設置したセンサーカメラにはクマがワナを踏んでも掛からなことが推測される静止画及び動画が撮影されていました。

また、効率よく捕獲するため、2箇所に設置した「ヘイキューブ」には食べられた痕跡はなく、餌の種類、設置時期等を考えるとともに、「メールでハンター」を3箇所に設置したところ、そのうち1箇所の通信機から通報がありました。枝の落下による誤作動と判明したことから、次に設置する際には設置方法等の工夫を行う必要があることが課題となりました。



バネなし足用くくりワナの設置



撮影されたクマ

ニホンジカ対策への取組は検討する課題が沢山ありますが、関係機関等と連携しながら引き続き進めたいと考えています。

第5 森林ボランティアへの技術支援

1 「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催

中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人との交流促進及び情報交換や相互研鑽を行うことで、ボランティア団体等の更なる資質の向上を図るとともに、広く一般の皆さんに対し国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に10月26日（金）、27日（土）の2日間、北安曇郡松川村において「森林ボランティア・NPO連携推進会議」をボランティア団体代表による実行委員会が主催、中部森林管理局が後援として、9団体と局署職員合わせて36名が参加して開催しました。



あがりこサワラを見る参加者

1日目の開会式には松川村長及び中信森林管理署長の挨拶、開会式後は参加団体の見識を広げるため、中信署管内の馬羅尾^{ぼらお}国有林で松川村と中信署が「多様な活動の森における活動に関する協定」を締結している「あがりこサワラの森」まで移動し、中信署松川森林事務所森林官等から、現地の概要、あがりこサワラの成り立ち等の説明を聞きいたのち、実際にあがりこサワラを見て見識を広めました。その後、翌日に開催する「森・ふれあいフェスタ」の会場となる松川村役場に隣接したリンリンパークへ移動し、会場準備とそれぞれ担当するブース毎に分かれ、打合せ等を行い1日目を終了しました。

2日目は前日の夜から雨が降りだし、昼頃からは天候が回復するとの予報に期待をしながらの会場設営でしたが、設営を終了する頃には晴れ間も見え「森・ふれあいフェスタ」の開催となりました。フェスタではミニイス作りや木工細工など10個のブースを設営し、訪れた一般市民約220名の方に様々な体験を楽しんで頂き、多くの親子連れの方々から「楽しかった」との声が聞かれました。

また、参加されましたボランティア団体の皆さんも、2日間を通して充実した連携・交流の場となりました。



箸作りを楽しむ親子



木工細工を楽しむ子供達

第6 木曾川上下流交流事業

1 育樹祭、体験学習等

(1) 木曾広域連合・名古屋市民の森づくり事業

愛知県名古屋市では、名古屋城本丸御殿復元事業で、木曾ヒノキが材料として使用されることから、使用するだけでなく植栽、育樹をおこない上流域である木曾地域の豊かな自然環境を将来に残そうと、「市民による森づくり」の活動が5月19日（土）に木曾郡木曾町の町有林で行われ、今回で10回目となります。

当日は前日までの雨もあがり青空の中で開会式が行われ、その後に間伐デモンストレーションとして、森林組合の職員によりチェーンソーによるカラマツの伐倒の実演があり、カラマツが倒れる瞬間の迫力に参加者からは大きな歓声がわき上がりました。

式典終了後は、名古屋市からの一般募集市民120名と関係者合わせて約200名は、班別に分かれてヒノキのほか、クリなどの広葉樹850本の苗木を植えました。

当センターでは、職員派遣依頼を受け、技術指導と作業用具の貸出しを行いました。



植付作業を行う参加者

(2) みよし市・木曾町友好の森ふれあいツアー

愛知県みよし市は、木曾郡木曾町三岳地区内に水源涵養林として保有している「友好の森」の保全活動を通じ、市民の皆さんに森林保護、環境保全等の啓発を行うとともに、上下流域交流を図ることを目的に「みよし市友好の森ふれあいツアー」を平成15年度から開催し今回で16回目の開催となります。

9月15日（土）に開催したところ、台風21号の影響で前日まで現地に向かう道路が通行止めとなったことから、同三岳地区の太陽の丘公園に場所を移して、一般参加の市民31名（内小中学生18名）は、シラカンバの若木を使っての、丸太切りや切った丸太を使用して鉛筆立て等の木工細工体験となりました。当センターと木曾森林管理署職員は技術指導および道具の貸出しを行いました。

また、終わりの会では、友好の森巡視員の方からは友好の森の話と木曾地域振興局職員からは木の話聞くなど、参加者達は楽しい1日を過ごし無事に帰路に着きました。



丸太切り体験をする子供達

(3) 木曾地域振興局による郡内の植樹祭

5月26日(土)、長野県木曾郡大桑村の野尻袖山村有林において、木曾森林管理署、当センター後援による木曾郡植樹祭と大桑村・木曾森林管理署南木曾支署との合同育樹祭が開催されました。

当日は、晴天に恵まれ、式典では来賓の皆さんのあいさつや、大桑小学校児童による「みどりの宣言」等が行われました。式典終了後はアトラクションとして、大桑小学校5年生によるオカリナ演奏会が行われました。

その後、地元住民、地域関係者をはじめ林業関係者ら約600人が、コナラ、ミズナラ、トチノキ、カシワ、ミツバツツジの5種265本を植栽するグループと、広葉樹の植栽地を整理するグループに分かれて作業を行いました。



大桑小学生5年生によるオカリナ演奏

(4) 木曾地区みどりの少年団交流集会

木曾地区のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした木曾地区みどりの少年団交流集会が、7月31日(火)に長野県木曾地域振興局の主催で開催され、当センターも技術指導のために参加しました。

当交流会は木曾地域の町村で毎年実施されており、今年は王滝村「松原スポーツ公園」を会場に11の少年団、引率教員、主催者、指導者等含めて約140名が参加しました。

当日は代表として3つのみどりの少年団による活動発表後に、各グループに別れ名札づくりの作成及び自己紹介のあと、森や自然、木曾五木等に関するクイズラリーを行いました。



鉛筆立てを作成している様子

午後からも、引き続きグループ毎で木工体験として木曾五木のペン立てと木製プランター作りを行いました。

子供達は完成する頃にはお互いに仲良くなり、良い交流の場となりました。

(5) 犬山中学校森林体験学習

愛知県犬山市の犬山中学校は、市の水源の一つである木曾川上流の木曾地域において、木曾の自然や文化を学ぶ木曾総合学習を2日3泊の日程で平成11年から毎年行っており、今年で20年目となりました。

2年生の約210人は、その最初の体験学習として、5月15日（火）に赤沢自然休養林内で、遊歩道へのヒノキチップ敷設作業と森林散策を3つのグループに分かれ行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。



遊歩道に撒くチップを運ぶ生徒達

(6) 阿久比高校森林ボランティア作業

8月7日（火）愛知県立阿久比高等学校の生徒43名と教師4名により、木曾町開田高原の末川国有林においてクマ被害防止テープ巻き及び除伐作業を行いました。

阿久比高校では、生徒達が例年阿久比町内外でボランティア活動を実施しており、この森林ボランティア作業もその一環として行われています。昨年度は台風の影響で中止となりましたが、今回で21回目となります。作業地は毎年長野県西部地震復旧跡地の「国民の森」において除伐作業を実施していましたが、7月の豪雨により林道が荒れてしまい通行ができない状況となり、作業場所を変更して実施しました。

当日は当センター及び木曾森林管理署職員の指導の下6班に分かれ、それぞれ班毎にクマ被害防止テープ巻きと手ノコを使い除伐と、除伐した木を玉切る作業を行いました。どの生徒も最初は慣れない作業で手間取っていましたが、作業を進める内に徐々にうまく作業が出来るようになり、終わるまで怪我も無く無事に作業を終了することができました。今回のボランティア作業を通して、森林の大切さや森づくりの苦労などを理解したと思います。



ヒノキの除伐作業を行う学生



クマ被害防止テープを巻く学生達

(7) NPO法人 地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」は、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始し、その後、「ふれあいの森（名称：『大樹の森・赤沢』）」の協定を締結以降、毎年春と秋に森林整備を実施しています。

今年度は5月19日（土）、20日（日）と10月20日（土）、21日（日）に延べ37名がヒノキ除間伐作業を行い、当センター及び木曾森林管理署職員から伐倒方法の手順、かかり木処理の仕方などの安全指導を受けながら作業を実施しました。その後、天然更新試験地の見学、ヒノキ等の更新メカニズムや保育の大切さの説明を受けました。



ヒノキの除伐作業を行う参加者

また、10月21日は除間伐作業終了後、赤沢休養林内に移動し平成17年度に行われた「第62回御杣始祭みそまはじめさい」の御神木の伐採跡地みつひもきりに移動し、御神木の選木条件、三つ紐切り等の説明を受け無事に作業を終了しました。

(8) 中日森友隊ボランティア作業

中日森友隊は、市民参加の育林作業を通じて、健全な森林環境づくりの手助けを行い、「緑を育て森に親しむ」市民の輪を広げ次世代に伝えることを目的として活動をしている緑のボランティア団体です。

森林ボランティア作業は、いままで木曾郡王滝村で、昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震の災害復旧箇所である「国民の森」で毎年継続して除伐作業を実施していましたが、本年度は7月下旬に発生した豪雨等により、現地に向かう村道等が崩落等により行くことができなくなり、作業場所を同じ王滝村にある「名古屋市民おんたけ休暇村」に変更し、11月4日（日）にヒノキ人工林の間伐作業を、休暇村職員、木曾森林管理署及び当センター職員の作業指導のもと実施しました。当日は小雨模様の中、参加した15名は3班に分れ、ノコギリを使用して形質不良の植栽木等の伐倒と枝払い及び1.

2mでの玉切、その後歩道までの運搬作業を行いました。特にヒノキの伐倒作業ではほとんどがかかり木となるなか、当センター等から貸出したロープ、フェリングレバーやチルホールを使用してかかり木処理をするなど安全作業に徹して行いました。参加者の中には作業中に足元が滑り転倒する方もいましたが、全員が怪我もなく無事に作業を終えることができました。



ヒノキの間伐作業を行う隊員

2 国有林見学会

木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曽川下流域の住民を対象とした「木曽の国有林見学会」を、本年度は5月29日(火)、7月26日(木)、10月25日(木)に開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曽地域と名古屋の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうことと、併せて木曽地域復興支援を目的に、下流域の都市住民の方々に木曽川源流の国有林を訪ねていただき、木曽地域の林業のあゆみ、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や、木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座で、名古屋市内を中心にそれぞれ40名程度の一般参加者とガイドを行う国有林職員により実施しており、口コミ等により名古屋市民から好評をいただいています。

本番に先駆け、参加者の中で希望者を対象に、より見学会を有意義にさせていただくため、名古屋事務所が「熱田白鳥の歴史館」において、名古屋市熱田区に貯木場があったこと、木曽地域との関係や赤沢自然休養林の概要などを写真や映像を使い理解を深めるための事前学習会を開催しました。

当日は、バスの中で森林鉄道や木曽ヒノキに関する映像を見ながら向かうとともに、途中からバスに乗り換えた当センター所長から、赤沢自然休養林までの景勝地等の説明を受けながら、木曽ヒノキの生地へと向かいました。

春の見学会は、天候に恵まれ赤沢自然休養林に到着後、暖かな日差しの中で昼食をとり、森林鉄道で木曽ヒノキの森林と溪流が織り成す景色を眺めながら終点「丸山渡停車場」に移動し、職員のガイドにより歴史とともに育まれてきた樹齢約300年余りの木曽ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曽五木の見分け方や特徴などを学びました。



木曽五木の説明を聞く参加者（夏季）

また、夏の見学会では夏休みの期間であったことから、初めて小学生3名の参加があり「森林鉄道に乗れて良かった」との感想が聞かれました。

3回目の秋の見学会では、散策後に来年度以降の見学会の開催について、簡単なアンケートを記入していただき、ほぼ全員の参加者から「引き続き継続をお願いしたい」との回答が得られたとともに、感想についても「国有林への理解がすこし進みました。また、木曽の桧と名古屋との関わりについても知ることができ、とても良い1日でした」と書かれていました。

なお、この国有林見学会は木曽復興支援の取組に位置づけており、今後も実施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しになるよう努めて参ります。

第7 森林散策マップ普及事業

1 パズルラリー

(1) 中山道 木曾十一宿パズルラリー

平成26年の御嶽山噴火災害の発生から4年目となる現在でも、木曾谷を訪れる観光客は噴火前の75%（平成25年：2,902万人、30年：2,180万人）にとどまっています。

長野県の提唱する「つながろう木曾応援運動」の一環として、木曾谷の観光ルートである木曾街道にちなみ、過去の歴史上の偉人・文豪等により創生された木曾ブランドが有する集客や木曾谷の連帯強化への波及効果をパズルラリーに期待した取組です。

パズルの絵柄は、木曾路美術館の協力を得て美術館所蔵の歌川広重が描いた「木曾街道六十九次」から北部は「贅川」、南部は「上ヶ松」を採用し、6分割したピースを長野県塩尻市贅川（にえかわ）宿から岐阜県中津川市馬籠（まごめ）宿の間、十一の旧宿場に設置したパズル箱の中に置き、パズルピースを集めるもので、木曾郡木曾町の福島宿と木曾郡上松町の上松宿を境に北部と南部に分け、6分割されたパズルピースを全て集めると浮世絵が2種類完成します。



北部 贅川



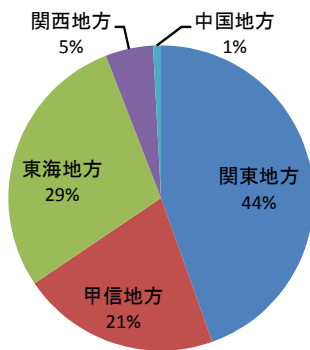
南部 上ヶ松

木曾路美術館 所蔵

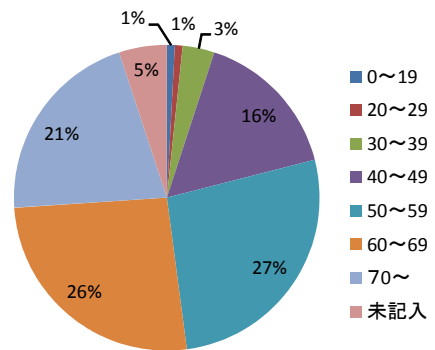
平成29年11月1日から始めたもので、北部、南部でそれぞれ準備したパズル500セットが無くなり次第終了としています。平成31年2月末現在で、北部制覇が45名、南部制覇が35名、北部と南部の両方を制覇した人が39名となっています。

参加者の内訳は関東地方居住者が44%、甲信地方居住者が21%、東海地方居住者が29%を占め、年齢別では50代以上が74%で男女別では男性56%、女性44%となっています。

参加者の居住地



参加者の年齢構成



(2) 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー

平成29年度11月で終了した「木曽路トレッキングパズルラリー」の普及版であり、赤沢自然休養林内の遊歩道を対象に、短時間で完成することが出来る「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」を引き続き第4弾を平成30年4月28日～7月10日まで、第5弾を10月1日～11月7日まで実施しました。

パズルの絵柄は、中部森林管理局が所蔵し林業遺産にも登録された「木曽式伐木運材図会」の1場面を6分割したものです。この木曽式伐木運材図会は、江戸時代後期頃の木曽地方や飛騨地方の奥山で大木を伐採するところから、造材、搬出・集材、木曽川でのいかだによる流送、熱田の白鳥湊（愛知県名古屋市）での集積、大型船による海上輸送までの様子が、作業工程順に絵図と詞書（ことばがき）で説明されている絵巻物2巻で、上巻から、第4弾が「祭山神図」、第5弾が「柚小屋の図 其二」を採用しました。



赤沢自然休養林 第4弾

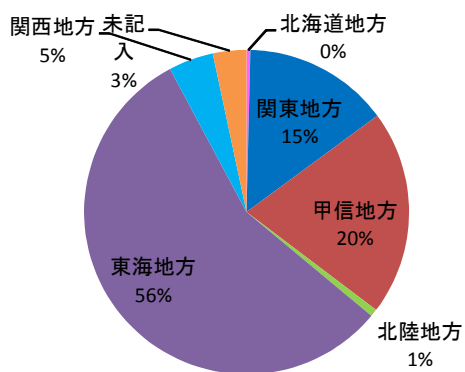


赤沢自然休養林 第5弾

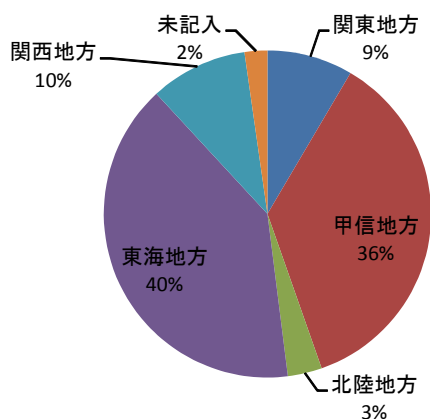
参加者の居住地別では、第4弾、5弾とも東海地方からのお客さんの挑戦が上位を占め、まさに川上と川下の交流が果たされたと感じましたが、中には第4弾で北海道から1名のお客さんが挑戦されました。

性別は男性、女性とほぼ同数で年齢構成は50歳以上が60%以上となりました。

第4弾 参加者の居住地



第5弾 参加者の居住地



パズルラリーは、平成28年度から始めた事業であり、木曾谷の観光地への集客にもたらした影響は未知数ですが、協賛していただいた各団体からも「好評だった、継続して欲しい」との意見もあり、地元町村や観光協会等の協力を得ながら木曾谷支援の取組として、平成31年度も引き続きパズルラリーを実施します。

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	5	長野県林業大学校入学式(木曽町)
	5	長野県木曽青峰高校入学式(木曽町)
	8	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曽町「城山史跡の森」)
	21	NPO木曽川・水の始発駅総会(木祖村)
	22	NPO木曽ひのきの森総会(上松町)
	28	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始(上松町「赤沢自然休養林」)
	29	きそネイチャーマイスター養成講座実習A 植物観察会(木曽町「城山史跡の森」)
5	1	城山史跡の森 カタクリ自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	2	第1回森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会(松川村ほか)
	9	長野県上松技術専門学校 林業体験(上松町「赤沢自然休養林」)
	14	城山史跡の森 ヤマシャクヤク、ササユリ、電気柵設置(木曽町「城山史跡の森」)
	14	城山史跡の森 ヤマシャクヤク自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	15	愛知県犬山中学校木曽総合学習(上松町「赤沢自然休養林」)
	15	木曽福島林業振興会総会(木曽町)
	18	城山史跡の森 カザグルマ自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	19	平成の名古屋市民の森づくり事業(木曽町)
	19	NPO地球緑化センター 「山と緑の協力隊」赤沢プログラム(上松町「赤沢自然休養林」)
	24	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	25	長野県木曽青峰高校体験学習(上松町「赤沢自然休養林」)
	26	木曽郡植樹祭 大桑村・木曽森林管理署南木曽支所合同植樹祭(大桑村)
27	第2回「木曽悠久の森」写真コンテスト表彰式(上松町「赤沢自然休養林」)	
6	9	長野県林業大学校40周年記念式典(木曽町)
	15	城山史跡の森 ササユリ自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	18	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	19	木曽町・木曽森林管理署 林政懇談会(木曽町)
	21	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
	28	高山植物等保護対策協議会木曽地区総会(上松町「木曽森林管理署」)
7	3	森林・林業体験交流促進対策 第3回検討委員会(王滝村)
	10	ふるさと森づくり県民の集い木曽地域実行委員会設立会議(木曽町)
	13	“森と自然を活用した保育・幼児教育”に関する自治体勉強会in中部(美濃市)
	17	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曽町「城山史跡の森」)
	23~24	三者協定現地検討会(王滝村 助六実験林外)

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
7	25	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
	25	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
	26	木曾の国有林見学会(2018夏季)(上松町「赤沢自然休養林」)
	31	木曾地区みどりの少年団交流集会(王滝村「松原スポーツ公園」)
8	4	長野県林業大学校40周年記念シンポジウム(木曾町)
	7	教職員森林・林業学習会(木曾町「御料館」、「城山史跡の森」)
	7	愛知県立阿久比高校森林ボランティア(木曾町)
	9~10	「木曾悠久の森」管理委員会(上松町、王滝村)
	11	高山植物等保護合同パトロール(木曾町)
	29	第2回森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会(松川村)
	30	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
9	3	第4回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
	9	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町「城山史跡の森」)
	13	中央アルプス木曾駒ヶ岳植生復元作業
	15	みよし市友好の森ふれあいツアー(木曾町「太陽の丘公園」)
	27	第5回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
10	2	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
	11	国有林等所在市町村長有志連絡協議会木曾地区総会(上松町「木曾森林管理署」)
	14	熱田区区民まつり(名古屋市熱田区)
	16	ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村春山線)
	18	日中韓ファールム(上松町「赤沢自然休養林」)
	19	第3回森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会(松川村)
	21	NPO地球緑化センター「山と緑の協力隊」赤沢プログラム(上松町「赤沢自然休養林」)
	22	「木曾悠久の森」植生管理専門部会(王滝村)
	22	第6回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
	22	第4回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
	25	木曾の国有林見学会(2018秋季)(上松町「赤沢自然休養林」)
	26~27	森林ボランティア・NPO連絡推進会議(松川村)
28	城山史跡の森 秋のハイキング「秋の植物観察会」(木曾町「城山史跡の森」)	
11	4	中日森友隊 森林ボランティア作業(王滝村)
	7	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー終了(上松町「赤沢自然休養林」)
	13	城山史跡の森 小鳥の巣箱点検、ヤマシャクヤク、ササユリ自生地整備(木曾町「城山史跡の森」)

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
11	19	阿寺国有林試験地調査(大桑村)
	21	城山史跡の森 コウヤマキ更新調査(木曾町)
	27	第7回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
12	4	ふるさと森づくり県民の集い木曾地域実行委員会第1回幹事会(木曾町)
	6~7	中部森林管理局・森林総合研究所 技術交流会(上松町、「赤沢自然休養林」)
	16	御料館林業遺産認定記念講演(木曾町「御料館」)
	17~18	「木曾悠久の森」森林総合利用・地域振興専門部会(上松町、「赤沢自然休養林」)
	18	第8回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
1	9	カラマツ林業等研究発表会(塩尻市)
	15	王滝やまのこ学校協議会設立総会(王滝村)
	16	森林ボランティア・NPO連絡推進会議実行委員会(松本市)
	21	第9回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
	29~30	中部森林技術交流発表会(長野市「中部森林管理局」)
2	19	三者(信大農学部、森林総研、中部局)協定に関わる打合せ会議(長野市「中部森林管理局」)
3	2	長野県木曾清峰高校卒業証書授与式(木曾町)
	5	長野県林業大学校卒業式(木曾町)
	6	ふるさと森づくり県民の集い木曾地域実行委員会第2回幹事会(木曾町)
	7	生産性向上実現プログラム取組事例発表会(上松町「木曾森林管理署」)
	11	平成30年度 中部森林管理局と信州大学農学部との連携協議会(伊那市)
	13	長野林政協議会木曾谷流域部会(木曾町)
	19	森林・林業体験交流促進対策 第4回検討委員会(王滝村)
	20	城山史跡の森倶楽部総会(木曾町)